





株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループの第83期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

当連結会計年度の売上高は、2024年2月に連結子会社化した株式会社おいもやの売上の純増分もあり、28,071百万円（前連結会計年度比15.1%増）と前年を大きく上回る結果となりました。営業利益は、売上高の増加や商品の内容量変更・価格改定による売上原価率の改善に加えて、株式会社おいもやの利益が加わったことや、その他の子会社の業績が好調に推移したことなどにより、1,405百万円（前連結会計年度比505.7%増）となりました。また、経常利益は営業利益の改善に加えて受取配当金が増加したことなどにより2,671百万円（前連結会計年度比86.8%増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、特別利益に投資有価証券売却益3,363百万円などを計上しました結果、4,719百万円（前連結会計年度は703百万円の純損失）となりました。

当社グループは「Challenge for the future 未来を創造する挑戦」をスローガンに掲げ、3ヵ年計画である中期経営計画「MEITO CHALLENGE 2026」を推進しております。引き続き中期経営計画の成長戦略を着実に実行しつつ、中長期的な企業価値向上とさらなる成長の実現に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご愛顧とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長グループ代表

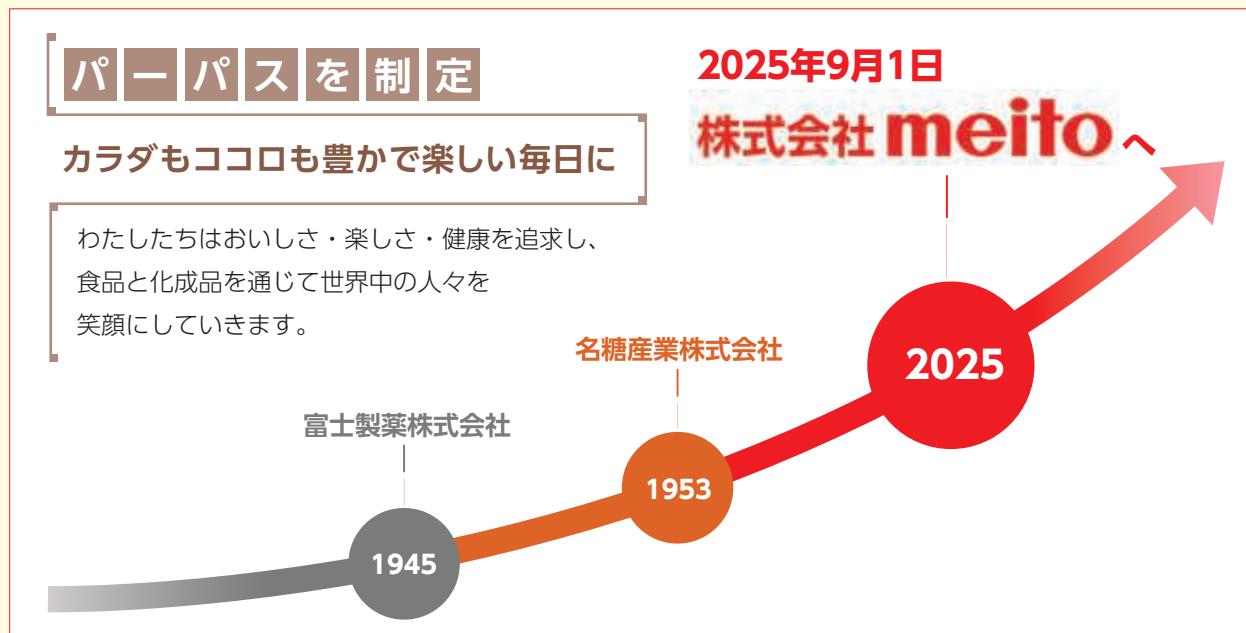
三矢益夫



創立80周年を機に、新たな社名へ

当社は1945年に家庭用医薬品を製造する「富士製薬株式会社」として創業しました。1951年にチョコレートやキャンディの菓子製造を開始し、1953年に「名糖産業株式会社」に商号を変更しました。その後、日本初の粉末ジュースの製造開始、当時高級品だったチョコレートの徳用大袋の発売など先駆的な取り組みにより、食品事業の基盤を築きました。化成品事業においては、日本で初めての代用血漿デキストランの工業化、微生物から新たに発見した生産菌による脂肪分解酵素リパーゼの製造や動物レンネットの代替として世界で初めての微生物レンネットの開発など、世界屈指の化成品メーカーとしてグローバル展開しています。

このような中、2025年2月に迎えました創立80周年を機に、多角化した当社グループの存在意義を見つめ直し、商号を「株式会社meito」に変更することを決定いたしました。長きにわたりお客様に親しまれてきたブランド「meito」と商号を統一することで、国内外への発展を目指し、さらなるブランド認知と企業価値の向上を図ってまいります。さらには、当社グループの社会的存在意義と方向性を明確にするために、パーパス「カラダもココロも豊かで楽しい毎日に」を制定いたしました。今後もこのパーパスのもと、グループ一丸となって持続的な成長を目指してまいります。



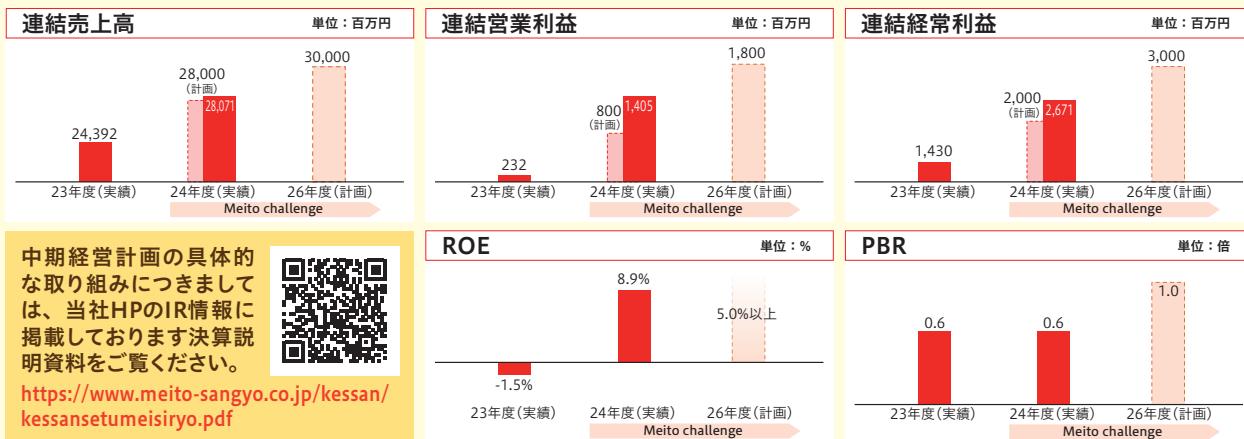


MEITO CHALLENGE (中期経営計画)

中期経営計画「MEITO CHALLENGE 2026」初年度の振り返り

本計画では、最終年度である2026年度において、売上高300億円、営業利益18億円、経常利益30億円、ROE5%以上、PBR1倍の達成を経営目標として掲げております。

初年度となる2024年度は、売上高280億円、営業利益14億円、経常利益26億円、ROE8.9%、PBR0.6倍で着地いたしました。この実績は、本計画における2024年度の売上高280億円、営業利益8億円、経常利益20億円をいずれも上回っており、順調なスタートを切ることができました。



中期経営計画の具体的な取り組みにつきましては、当社HPのIR情報に掲載しております決算説明資料をご覧ください。



<https://www.meito-sangyo.co.jp/kessan/kessansetumeisiryu.pdf>

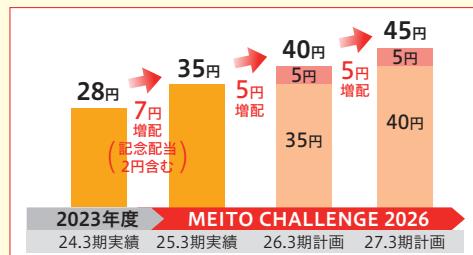
食品事業においては中核ブランドの認知度向上および売上拡大を目的としたSNS広告やテレビCM、プレゼントキャンペーンなどの施策が奏功し、化成事業においても高付加価値商品のグローバル展開を強化するなどの販売戦略が成果を挙げております。さらに、2024年2月に連結子会社化した株式会社おいもやの寄与もあり、売上高は大幅に伸びました。

また、両事業において設備増強および増産体制の確立など、生産戦略も着実に進行しており、売上・利益ともに堅調に推移しております。

あわせて、ROEおよびPBRについても、引き続き資本効率の向上に取り組み、財務戦略を推し進め目標値を目指してまいります。

株主還元

当社は「将来に向けた成長投資を行い、収益力の向上と資本効率の改善を図りつつ、安定的な配当を維持継続することを利益配分の基本とし、累進配当を継続して実施する方針」としております。この基本方針のもと、当初計画していた1株あたり30円から5円の増配を行い、年間配当金は前期比7円増の35円といたしました。また、中期経営計画期間中の配当金に関する経営指標 (KPI) として、各年度5円ずつの増配を計画しており、2026年3月期は40円、2027年3月期には45円とする計画です。





Products おすすめの商品紹介

食品

つくってたべよう！
さなぎ3Dゼリー



本物そっくりな、
さなぎの形のゼリーができる！

レモンティー 8P



紅茶にレモン果汁と甘味を加えた
本格派のインスタントレモンティー

果汁0.1%

牛乳でつくるココア



カラダにうれしいビタミンB₆と
ビタミンCを加えた栄養機能食品

アイス

ひとくちカフェオレ



人気の徳用チョコボールの弟分
カフェオレ風味のひとくちタイプ

株式会社エースペーカリー ゼリー

学研の図鑑
LIVEゼリー 恐竜編



「学研の図鑑LIVE」とのコラボ商品
フタ材の恐竜柄は30種類
(その内8種類はAR対応)

果汁100% 蒟蒻ゼリー



濃厚でジューシーな果汁の味わいを
たのしめる！ピーチ、アップル、グレープの
3種類のアソート



Financial Highlights 連結決算ハイライト

事業の概況

食品事業

売上高**24,405百万円**／営業利益**1,477百万円**

当連結会計年度におきましては、原材料価格の高騰やエネルギーコストの高止まりなどの厳しい経営環境により、一部商品の内容量の変更や価格改定を実施しました。

主力の菓子部門につきましては、「ぶくぶくたい発売35周年プレゼントキャンペーン」などの販売促進活動の取り組みや連結子会社化した株式会社おいもやの主要商品である芋菓子の売上が寄与したことなどにより、大幅な増収となりました。チョコレート類は、中核ブランドの「アルファベットチョコレート」などの売上が増えたことにより増収となりました。キャンディ類は、自社商品の売上が減少しましたが、受託商品の売上が増加したことにより前連結会計年度並みの売上となりました。そのほか、連結子会社の株式会社エースペーカーは、「凍らせて食べるシャーベット」シリーズの販売が好調なゼリー類の売上が大きく伸びて増収となりました。

粉末飲料部門につきましては、テレビCMなどの販売施策に取り組みましたところ、「ロイヤルミルクティー」などが売上を落としましたが、「香り高いミルクココア」の売上が増加したことにより、若干の増収となりました。

また、冷蔵部門につきましては、自社商品・受託商品ともに記録的猛暑や残暑が長引いたこともあり好調に推移し、増収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前連結会計年度比16.0%増の24,405百万円となりました。営業利益につきましては、売上高の増加や商品の内容量変更・価格改定による売上原価率の改善に加えて、株式会社おいもやの利益が加わったことや、その他の子会社の業績が好調に推移したことなどにより、前連結会計年度比289.8%増の1,477百万円となりました。

化成品事業

売上高**3,389百万円**／営業利益**837百万円**

酵素部門につきましては、海外を主な市場としており、海外企業との販売競争が激化する中、精力的な営業活動を推進しました。その結果、チーズ用凝乳酵素「レンネット」は前連結会計年度並みの売上でしたが、脂肪分解酵素「リパーゼ」は海外市場にて売上が大きく伸びて増収となりました。

また、薬品部門につきましては、乳癌転移検出用医療機器で使用される「デキストランマグネタイト」の売上が拡大して増収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前連結会計年度比10.2%増の3,389百万円となりました。営業利益につきましては、売上高の拡大や利益率の高い製品の販売が好調に推移したことなどにより、前連結会計年度比38.9%増の837百万円となりました。

不動産事業

売上高**276百万円**／営業利益**94百万円**

不動産事業につきましては、賃貸駐車場を売却したことなどにより、売上高は前連結会計年度比2.3%減の276百万円となり、営業利益は前連結会計年度比5.3%減の94百万円となりました。

不動産事業 1.0%

化成品事業 12.1%

売上高
構成比

食品事業 86.9%



Financial Highlights 連結決算ハイライト

連結業績の推移

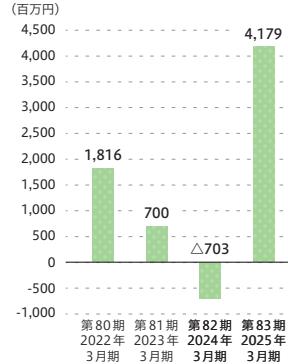
● 連結売上高



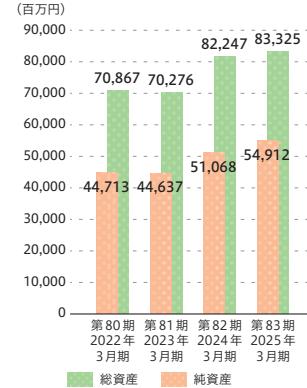
● 連結経常利益



● 親会社株主に帰属する当期純損益



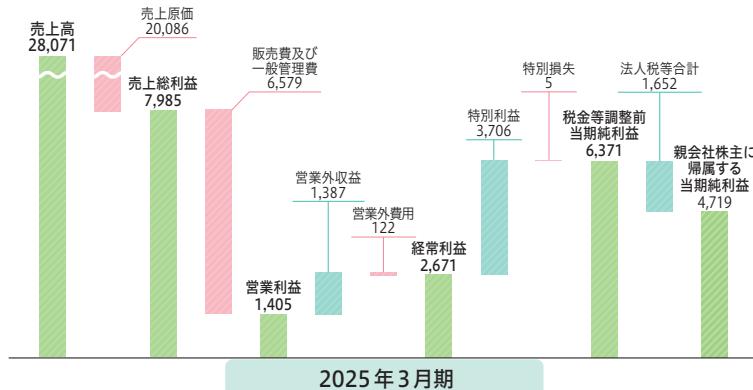
● 連結総資産／連結純資産



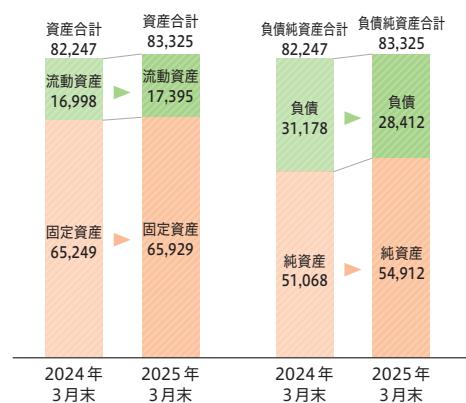
(注) 第83期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、第82期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

財務データ

● 連結損益計算書 (単位：百万円)



● 連結貸借対照表 (単位：百万円)





Corporate data コーポレートデータ

会社の概要 (2025年3月31日)

社名 名糖産業株式会社
 本社所在地 名古屋市西区笹塚町二丁目41番地
 設立 昭和20年(1945年)2月
 資本金 13億3,519万円
 事業内容 食品・化成品の製造販売および不動産賃貸
 従業員数 391名



本社ビル

主な事業所 支店/東京・名古屋・大阪・福岡
 営業所/東京(化成品)
 工場/瀬戸・名古屋・枇杷島・小牧・八王子・福岡

主要な子会社 株式会社エースペーカーリー(愛知県小牧市)
 名糖乳業株式会社(福岡県飯塚市)
 プリンスゴルフ株式会社(福岡県宮若市)
 株式会社ピーシーエス(名古屋市中村区)
 株式会社おいもや(静岡県掛川市)
 株式会社平松商店(静岡県掛川市)

株式の状況 (2025年3月31日)

発行可能株式総数 50,000,000株
 発行済株式総数 17,289,308株
 株主数 26,447名

役員 (2025年6月26日)

代表取締役社長 三矢益夫
 常務取締役 山崎潔
 取締役 内木裕之
 取締役 井尾哲也
 取締役 原田宏隆
 取締役・常勤監査等委員 和波博則
 取締役・監査等委員 宮本正司
 取締役・監査等委員 宮本司
 取締役・監査等委員 山本光

(注) 取締役・監査等委員宮博則氏、宮本正司氏および山本光子氏は、社外取締役(独立役員)であります。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月中
 公告の方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告により公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
 電子公告のホームページアドレス
<https://www.meito-sangyo.co.jp>

上場証券取引所 東京・名古屋
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

(お知らせ) 1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について
 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
 2. 未払配当金の支払いについて
 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株主優待のご案内

当社株式への投資魅力をさらに高め、より多くの方々に当社株式を保有していただくこと、また原材料価格の高騰やエネルギーコストが高止まりしている中、優待品価値の維持向上を目的として、株主優待制度の内容を変更(拡充)いたしました。

基準日	優待内容	内容	
		変更前	変更後
毎年3月末日	200株以上	2,000円相当	3,000円相当
	100株以上	1,500円相当	2,000円相当
毎年9月末日	200株以上	-	3,000円相当
	1,000株以上	3,000円相当	4,000円相当
	5,000株以上	5,000円相当	6,000円相当

今後も、株主の皆様にご満足いただける、より魅力的な株主優待制度の充実を図ってまいります。



ホームページのご案内
<https://www.meito-sangyo.co.jp>

当社ホームページでは、商品ラインナップ、キャンペーン情報、IR情報等幅広い情報をご提供しておりますので、是非一度ご覧ください。

